新興感染症対策寄附講座

１．スタッフ

特任講師　岡本（おかもと）　真一郎（しんいちろう）
特任助教　濵田（はまだ）　昌平（しょうへい）
特任助教　西村（にしむら）　直（なお）

２．寄附講座の特徴

新興感染症は「これまで認知されていなかった感染症で、局地的あるいは、人物の移動による国際的な感染拡大が公衆衛生上の問題となるような感染症」である。2003 年の重症急性呼吸器症候群（SARS）、2009 年の新型インフルエンザ、2012 年の中東呼吸器症候群（MERS）の出現、さらに 2019 年末からの新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックと、新興感染症が医療のみならず社会的、経済的にも繰り返し甚大な影響を及している。本講座は COVID-19 を含む新興感染症への対処にあたり臨床感染症学、感染症管理学に関してひろく指導的役割を担う事のできる専門医の育成と、流行期の感染症指定医療機関を中心とした医療対策に関連する研究等を行う事により「新興感染症に対する危機管理」、「新興感染症流行下での住民の安心・安全な社会生活・医療提供体制の維持」に貢献することを目的として熊本市の要請により 2020 年 11 月に設置された。

本講座では COVID-19 重症患者受入に対応した他、地域での感染症診療において中心的な役割を担うことができる感染症専門医の養成を主目標とし、さらに地域での感染症対策、診療に関する知識向上のためのセミナー等の開催を通じて地域医療への貢献を目指し活動している。

３．診療内容、診療体制

・通常の感染症診療は呼吸器内科、血液・膠原病・感染症内科、感染免疫診療部と協同して行っており、診療科での感染症患者の診療に加え、他診療科からの感染症コンサルテーションに対応している。

・COVID-19 診療については、2021 年１月から人工呼吸管理や ECMO の適応となる重症患者の受入を、呼吸器内科、血液・膠原病・感染症内科、感染免疫診療部、感染症対応実践学寄附講座および本講座医師の合同で主治医チームを組織し、集中治療部医師とともに診療にあたった。2023 年５月８日の感染症５類移行にて重症チームでの診療体制は終了し 2023 年 4～5 月の患者受入はなかったが、2021 年からの重症患者受入総数は 60 例（うち死亡退院 14 例）であった。緊急確保病床による中等症患者の受入は、第６波、第７波および第８波に開設され、内科系医師による診療チームの中軸として新興感染症対策寄附講座医師も診療に貢献した。各開設時期における患者受入数は、第６波 66 例、第７波 150 例、第８波 113 例、総計 329 例であった。

・病院感染対策については感染制御部とともにインフェクションコントロールチーム（ICT）や抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の主要メンバーとして活動している。

４．高度先進的な医療の取組

COVID-19 の５類感染症移行後は各診療科での患者受入となったが引き続き、診療・感染対策に関する対応マニュアルのアップデートや診療科からの相談対応により診療支援を行った。

５．地域医療への貢献

地域における感染症医療体制の充実を目指して感染症専門医の育成に取り組んでいる。また医療従事者全般および一般地域住民向けの新興感染症診療・感染対策についてのセミナー開催を通じて地域での医療・保健水準の向上に取り組んでいる。2023 年度は 10 月 29 日に一般地域住民の向けセミナーとして「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）～これまでの総括と今後の課題～」、2024 年２月４日に医療従事者全般を対象とした薬剤耐性（AMR）対策のセミナーとして「ポストコロナの AMR 対策　～熊本の AMR 対策を考える～」をいずれも感染症対策実践学寄附講座との共同で現地および Web 配信のハイブリット形式にて開催した。

６．医療人教育の取組

感染症専門医育成について、2024 年度までに６名の感染症専門医新規取得を目指し、日本感染症学会の研修カリキュラムに基づいた研修指導を行っており、2023 年度までに２名が感染症専門医資格を取得している。また、当院で研修中の内科専門医研修プログラム、初期臨床研修プログラムにおける感染症症例の実地指導、卒前医学教育として医学部学生の臨床実習、講義を担当し感染症に関する教育に取り組んでいる。

７．研究活動

COVID-19 重症化に関わる宿主要因の検討、呼吸器感染症の薬物治療と効果に関する多施設共同研究、感染制御部と共同で医療機関での感染症診療及び抗菌薬適正使用支援における管理指標の設定・評価に関する臨床研究などを進めている。